**ハンドマイク演説　原稿例**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　日本共産党埼玉県委員会

ご通行中の皆さん、あけましておめでとうございます。本日はこの場をおかりしまして、日本共産党の憲法改悪反対の宣伝と署名を訴えさせていただきます。よろしくお願い致します。

今、岸田政権は、憲法を改正、特に憲法９条を変える動きを急速に強めています。「安倍晋三政権」がなしえなかった憲法９条改憲に本格的に乗り出そうとしています。

　昨年の総選挙の結果、自民・公明が安定多数を確保したのに加え、日本維新の会など改憲勢力が議席を伸ばし、改憲に必要な３分の２を超える議席を獲得しました。

岸田文雄首相は、「任期中の改憲」を繰り返し公言しています。「台湾有事」における「安保法制の発動や敵基地攻撃能力の保有や大軍拡に異常なほど前のめりです。

　憲法改正４項目のうち最大の狙いは、９条改正です。９条に自衛隊を書き込めば、自衛隊が世界のどこでも無制限の武力行使が可能になります。

憲法ができてから７５年、日本は世界の紛争や戦争に一度も参加してきませんでした。憲法９条があるから自衛隊の海外派兵や集団的自衛権の行使はできないと国会で答弁が繰り返されてきました。

憲法９条は、私たちの誇りでもあり宝ではないでしょうか。ぜひ署名にご協力ください。

昨年岸田内閣は、初めて「敵基地攻撃能力」の検討を言いだしました。敵基地攻撃能力とは、相手国の領域まで乗り込んで、ミサイル基地を攻撃し、地下施設も含めて大規模に破壊するもので、相手国の反撃をよび、全面戦争に発展しかねない極めて危険な道です。

政府は、莫大の軍事費を計上しています。長距離巡行ミサイル、Ｆ３５戦闘機の配備、空母への改修など、攻撃型兵器を備えるなど際限のない軍拡を進めています。こうした動きは、周辺国の間にも疑念を広げこの地域に極度の緊張をもたらしています。軍拡競争の悪循環を断ち切り、平和憲法をいかした外交交渉に力を発揮すべきではないでしょうか。どうぞ憲法改悪反対の署名にご協力ください。

改憲の２つ目の柱は、「緊急事態条項」の設置です。これは９条改憲と一体のもので、「内閣」に権力を集中し、独裁制を実現するもので現代「戒厳令」です。

政府が戦争状態だと判断すれば「内閣は政令を制定できる」とし、この政令は「法律と同じ効力を持つ」とされ国会を開かずに政府が人権制限など立法権を独占するものです。国民の人権は著しく制限され、戦前の大日本帝国憲法の緊急事態条項を思い起こさせるものです。

岸田政権の憲法改悪に反対しましょう。署名にご協力ください。

皆さん、そうはいっても「中国が心配」「台湾有事」が心配と思う方もいらっしゃると思います。中国の尖閣諸島への領海侵犯や台湾への行動は大変な問題であり、許されるものではありません。重要なのは、こうした中国の行動が国連憲章や、国連海洋条約など国際法に違反しているという外交的な批判によって中国を包囲していくことです。米国や日本の軍事的対応を強化する立場では、軍事対軍事の動きでは悪循環を招き、さらに偶発的な衝突から戦争への破局的な事態をもたらしかねません。東アジア地域に深刻な被害をもたらす米中の軍事的衝突を絶対に引き起こさないために、日本共産党は、継続的な対話によって地域の平和と安定を実現したＡＳＥＡＮの枠組みを活用し、東アジアに広げる構想の実現をめざします。憲法９条を生かした真剣な外交的努力で東アジアの平和と安定をめざすよう政府に強く求めます。みなさん、ぜひ憲法署名にご協力ください。

国民の世論と運動、市民と野党の共闘でこれまで安倍晋三元首相の憲法改悪を許してきませんでした。前政権を引き継いで憲法９条改憲を狙う岸田政権を全国の草の根の署名で包囲しましょう。

日本共産党は５月３日までに１０００万筆を目標にしています。ぜひご協力下さい。

７月には参議院選挙があります。埼玉選挙区からは、「梅村さえ子」さんが立候補を予定しています。日本共産党をよろしくお願いします。また日本共産党で発行している、赤旗新聞をご購読ください。

ご協力ありがとうございました。